

一本松遺跡展

～縄文時代と古墳時代のライフスタイル～

《展示の内容・趣旨》

一本松遺跡は、市内中沢地区に所在する縄文時代後期及び古墳時代前期の遺跡です。平成28年度に市が発掘調査をして、その後、整理作業を進めた成果が令和3年3月にまとまりました。今回の展示では、発掘調査で発見された遺構・遺物のうち、主なものを展示して、一本松遺跡の縄文時代、古墳時代のすがたを紹介します。

《おもな展示のご紹介》

縄文時代 主に後期前葉の遺構や遺物が、発見されました。その中でも3軒確認された「柄鏡形住居跡」は、「柄」の張出部も良好な状態で残っていました。また、調査地内からは「筒形土偶つつがたどぐう」も発見されました。これらの遺構・遺物は主に西関東で発見例が多く、他地域との交流がうかがえます。



上空から見た調査地（調査地東側部分）縄文時代の遺構は竪穴住居跡12軒と土坑51基を発見しました。

古墳時代 前期の竪穴住居跡6軒から多様な土器（土師器）が出土しています。



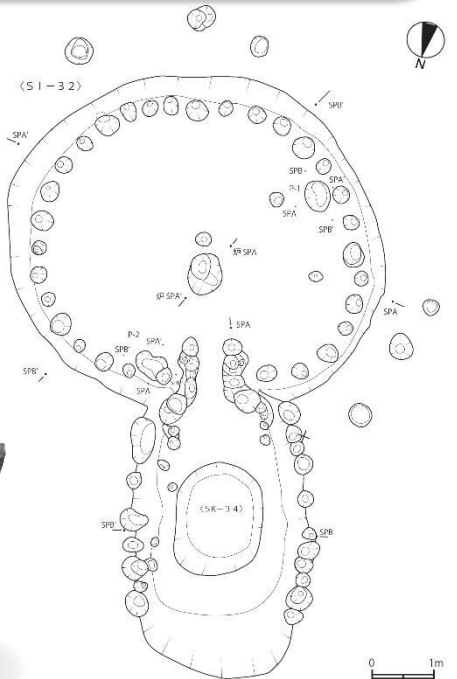
古墳時代 SI-1 住居跡

右上の隅に3点の遺物が出土

SI-1 住居跡遺物出土状況

写真左上から、壺、小型壺、高坏の3点がならんで出土しました

※高坏は表紙の資料で完形でした



表紙の柄鏡形住居跡の図面と出土した深鉢形土器（表紙左側の土器も同じ住居跡から出土しました）



筒形土偶（つつがたどぐう）

頭部がなく、確認できたのは胴部だけでした。市内では初の出土例で、県内でも類例が少ない土偶です。

